

校訓	真善美	平成29年度学校だより	発行日	平成29年7月20日
教育目標	自主、自立、感謝の精神を抱き、 未来を拓く生徒の育成 豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる	「荒中だより」 第15号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 難波 重之

一学期終業式にあたって

先日の夕方、職員室の電話が鳴りました。電話は地域にお住いの女性からでした。内容は「荒中生が、全然知らない子なのに毎朝『おはようございます』と挨拶してくれるんです。うれしくて電話しました」ということでした。たったそれだけのことなのですが、何だか聞いていて心が温かくなりました。以前あいさつは、「心を開いて相手に近づくこと」だと言いました。きっとこの生徒は、いい一日のスタートを切り、充実した一日を過ごしているのだらうなと思います。



東京オリンピックが開幕する2020年7月24日（金）まで、あと3年と4日です。4年に一度開催されるオリンピックにちなんだ4年という時間について話します。伊丹市出身でニューヨーク・ヤンキースの田中将大投手は、2008年北京オリンピックで野球の日本代表として活躍しました。当時19歳でした。その4年前の夏、駒大苫小牧高校1年生15歳のマー君は控え部員として甲子園球場のスタンドで応援に声をからしていました。その人が日の丸を背負う。4年とはそういう時間なのです。

東京オリンピックが行われる3年後は、皆さんは高校生です。その東京オリンピックでは、現在10代の選手の活躍が期待されています。卓球では、先日中学2年生の張本智和(ともかず)選手がリオ五輪銅メダリストの水谷隼選手を破りました。陸上競技では、18歳のサニブラウン選手が桐生選手などリオ五輪のメダリストを破り、100mと200mで優勝しました。あなたたちの先輩の現在高校2年生の荒井まつり祭里さんも飛び込み競技日本代表としてきっと活躍していることでしょう。

将棋の世界でも、皆さんと同世代の藤井聡太四段がプロデビュー以来29連勝し、大きな話題になりました。彼の強みは、沈着冷静な判断力と粘り強さや集中力だと言われています。彼は江戸時代から続く詰将棋つめしょうぎという方法と、様々な局面から自分が打つ手がどのくらい効果的なのかを数値で示してくれるコンピュータソフトを使って腕を磨いているそうです。伝統と現代をうまくミックスさせている藤井四段が、今後どのように成長するのか楽しみです。



10代の皆さんの**3年、4年**という時間は、**劇的に成長できる時間**だと思います。**将来の「なりたい自分」**をイメージし、今から3年後どのような高校生になり東京オリンピックを迎えているのか思い描き、その**思い描いた自分の姿に近づく努力**を続けてください。

さて、明日から長い夏休みに入りますが、その過ごし方について話します。今年の卒業式で、「**意志あるところに 道は拓ける**」と話しました。この言葉は、**自分の道は自分の意志と行動で切り拓かれる**ということです。**人間は毎日、「選択と行動」を繰り返しています**。朝目覚めた時から夜寝るまで、どう過ごすのか「選択」の連続です。授業のように選択できない決まったものもありますが、同じ50分の授業を受けていても、人によってその成果が大きく異なります。それは、「理解しよう、わかるようになろう」という意思ある選択をする人と、「心ここにあらず」で、ボーと過ごしている人の差となって表れるのです。

人間は、意志のある存在です。だから、「なりたい自分になることができる」のです。やろうとする意志のない人は、あれこれ言い訳を並び立て、行動をおこさないから、得られるものもないのです。これから暑く、長い夏休みに入ります。先ほども言いましたが、10代、特に**中学生の頃が一番、勉強面でも体力面でも成長する時期**です。しかし、使い方によって大きな差が出ます。**意志ある人は、毎日コツコツ勉強を続け、その積み重ねが9月に大きな力や財産になって自分にかえってきます**。勉強をやり遂げた自信と満足感でいっぱいになると思います。



また、部活動を休まず熱心に頑張った人は、秋になって力がついたことを実感するでしょう。長い夏休みですが、**少しずつ、そして着実に自分の目標に向かい前進**してください。日々の努力は決してあなたを裏切ることはありません。

最後に、**自分の命を大切に**してください。熱中症や交通事故、また火や水に係る事故には十分に気をつけて欲しいと願っています。命が何よりも大切です。2学期の始業式には、皆さんが一段と ^{たくま}逞しく成長し、この体育館に元気な顔で集まってくれることを願い、一学期終業式にあたっての式辞といたします。



自信と誇りを持てる学校を創ろう!!